

令和3年度 学校安全総合支援事業（学校安全体制の構築）の最終報告

学校名 （ 香々地小学校・真玉中学校 ）

1 学校の情報

(1) 学校規模

香々地小学校：学級数7 児童数61人 職員数13人

真玉中学校：学級数4 生徒数46人 職員数15人

(2) 分掌の位置づけ

防災教育モデル実践委員 16名

防災教育コーディネーター及び研究主任 香々地小学校：江久保 巨佑

真玉中学校：鈴木 崇弘

(3) 地域環境

豊後高田市は、大分県の北東部、国東半島の西側に位置し、北は周防灘に面し、西は宇佐市、東は国東市、南は杵築市とそれぞれ接しており、豊かな自然と温暖で過ごしやすい瀬戸内式気候に属している。

市内の主要な河川は、高田地区には桂川、真玉地区には真玉川、香々地地区には竹田川が走り、それぞれ周防灘に注がれ河口付近に市街地が形成されている。

また東部から南部にかけては、ハジカミ山、尻付山、両子山や日本三叡山に数えられる西叡山等の山々が連なり、国東半島のほぼ中央の両子山から放射線状に谷や峰々が伸びた地形となっており、その谷間に耕地や集落が形成されている。

地質については、礫、砂及び泥から成る沖積層は桂川、真玉川、竹田川などの流域に分布し、谷底平野を形成している。また、高田、真玉地区の周防灘に面した一部では、干拓地が形成され畑や水田に利用されている。


これらの地形や地質、気候の特質から、地震や洪水等の災害から住民の安全を確保するためには、緊急時の連絡体制等、防災体制の整備や防災教育のより一層の充実が求められる地域である。

2 取組のポイント

- ① 教育活動全体を通じて、「主体的に行動する態度」を育成するための教育手法や緊急地震速報等の防災に関する関係機関が有する各種情報ツール等を活用した避難行動に係る指導方法の開発・普及に関する研究を行う。
- ② 学校待機及び引き渡し訓練や安否確認訓練等、学校の安全管理体制の構築について研究を行い、改善を図る。
- ③ 拠点校を含めた市内全ての小中学校に防災教育コーディネーターを位置づけ、防災教育や学校安全に関する研修会等を受講する。（県主催の研修会等）


- ④ 県が委嘱する防災アドバイザーを適宜活用し、危機管理マニュアルや避難訓練等についての指導助言、防災講演やゲストティーチャーとしての防災授業など実践を通じて防災教育手法について研究を行う。
- ⑤ 拠点校以外の小中学校においても、拠点校の取組を参考に、防災に関する学習や、校内研修、より実践的な防災訓練などを実施する。また、拠点校以外の小中学校で実施した取組についても、有効と思われるものは、市教育委員会から、全ての学校に事例を紹介する。
- ⑥ 事業の実施に当たっては、関係機関等の専門的知識を活用した授業実践や教職員研修を実施する。
- ⑦ 委託事業終了後は、拠点校の取組をさらに定着、深化させ、市内の他の地域においても次代の安全文化の構築に取り組む。

3 具体的な取組

実施時期	豊後高田市教育委員会の取組	拠点校 香々地小の取組	拠点校 真玉中の取組	モデル地域内共通の取組
6月 6月 6月3日 6月11日 6月24日 6月25日	○実践委員委嘱 ○第一回実践委員会 紙面	○実践委員委嘱 ○第一回実践委員会 紙面	○実践委員委嘱 ○第一回実践委員会 紙面 ○防災学習（総合） ○防災学習（総合） グループ別学習	○第一回実践委員会 紙面
7月2日 7月7日 7月14日	香々地小校内研究会提案授業指導助言 真玉中校内研究会提案授業指導助言	○第1回校内研究会提案授業 5年生（総合） 「ふるさと香々地の名物を紹介しよう」 *非常食の視点から	○防災学習（総合） グループ別学習 第1回校内研究会（総合）3年 「通学路で自然災害が起こりそうな箇所を調べ、校長先生に伝えよう」	
				
		14 避難訓練		



<p>7月15日</p> <p>7月16日</p> <p>7月26日 夏季休業中</p>	<p>○校長会での情報共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体制づくり ・計画 ・指導計画 <p>第一回推進委員会</p>	<p>(不審者対応)</p>  <p>○校長会での情報共有</p>	<p>○校長会での情報共有</p> <p>16 防災学習（総合） グループ別学習</p>	<p>○校長会での情報共有</p> <p>○通学路合同点検の実施 点検結果に基づく児童への指導の実施</p>
<p>8月</p> <p>8月6日</p> <p>8月17日</p> <p>8月26日</p>	<p>○先進的実践校の視察中止</p> <p>○校長会での第一回推進委員会情報共有</p>	<p>○先進的実践校の視察中止</p> <p>○校内研修</p> <p>○校長会での第一回推進委員会情報共有</p>	<p>○先進的実践校の視察中止</p> <p>○校内研修 防災教育コーディネーターによるワークショップ ・大雨による家庭からの避難（ハザードマップを活用して）</p> <p>○校長会での第一回推進委員会情報共有</p>	<p>○各学校における学校安全計画や年間指導計画の見直し</p> <p>○校長会での第一回推進委員会情報共有</p>
<p>9月1日</p> <p>2学期中</p>	<p>○地域合同での避難訓練・引き渡し訓練に関して防災担当部局等との連絡・調整拠点校の実践</p>	<p>○避難訓練（火災） コロナ禍のため中止 ・各教室にて学習（防災教材『守ろう自分の命』を活用）</p> <p>○地域合同での避難訓練・引き渡し訓練計画 1</p>	<p>○地域合同での避難訓練・引き渡し訓練計画</p>	<p>○地域合同での避難訓練・引き渡し訓練計画</p>

	に対する指導助言			
10月	○第2回実践委員会 中止	○第2回実践委員会 中 止	○第2回実践委員会 中 止	○第2回実践委員会 中止
10月7日			○第2回避難訓練 (火災無・津波想定)	
10月13日			○防災学習(総合) グループ別学習	
10月28日			○防災学習(総合) グループ別学習 防災研修(修学旅行)天ヶ 瀬被災地視察学習 ・復興支援の様子と現地 ツアー(天ヶ瀬温泉未来創 造プロジェクト一般財団 法人あまみら代表近藤真 平さん)	
11月4日		○教職員研修(フィール ドワーク講座:県教委井 上主幹) ・地域安全マップの作成 について	○防災学習(総合) グループ別学習 防災食グループ出前講座 (県教委井上主幹) 「災害時の食事について 知ろう」 豊後高田市シェイクアウ ト訓練 (全校生徒・教職員60名 参加)	
11月10日		○地域フィールドワーク (3~6年生)		
11月11日			○防災学習(総合) グループ別学習	
11月15日			○防災学習(総合) グループ別学習	

11月17日	○香々地小校内研究会 提案授業 指導助言	○第2回校内研究会提案 授業 4年生(総合) 「住みよい環境や安全を 保つ香々地について調べ よう」		
11月19日			○防災学習(総合) グループ別学習	
11月21日		 	○防災教育中間発表(文化 祭)コース別発表 ・学校運営協議会委員の 参観 家庭への引き渡し訓練(火 災・津波無) 防災カレーの実食(保護者 協力)	
11月26日		○防災マップづくり(3 ~6年生)		
12月8日	○公開研究発表会 指 導助言	○公開研究発表会参加	○公開研究発表会 コース別発表 研究協議 「家庭・地域・学校が連携 した防災教育の在り方」 (文部科学省 総合教育 政策局 安全教育調査官 森本 晋也さん)	○公開研究発表会 各学校1名以上参加
12月9日	○ほっとはーと大分 TV収録防災教育普及 「防災教育モデル実践 事業の取り組み」につい て	 	○ほっとはーと大分 TV収録防災教育の普及 「防災教育モデル実践事 業の取り組み」について	
12月21日		○防災教室(6年生「高齢 者と災害」 県教委井上主幹		
12月28日		○職員研修(真玉中の実 践から学ぶ)		
1月	○第3回実践委員会	○第3回実践委員会紙面	○第3回実践委員会紙面	○第3回実践委員会

	紙面 (各学校の取組の共有)	(各学校の取組の共有) ○避難訓練 コロナ禍のため延期 ※ハンド型メガホン・ポータブルワイヤレスアンテナ使用予定	(各学校の取組の共有)	紙面(各学校の取組の共有)
2月2日		○防災集会 教職員研修 「災害時の児童引き渡しについて」県教委井上主幹		
2月4日				○グループ別学習(総合) これまでの取り組みのまとめ ・防災シミュレーション(タイムライン)
2月17日		○防災教室(6年生「香々の歴史と災害」 県教委井上主幹		
2月24日	○校長会での報告 今年度の取組まとめ来年度の取組の方向性 ○第2回推進会議紙面	○校長会での報告 今年度の取組まとめ来年度の取組の方向性 ○避難訓練(地震) コロナ禍のため延期 ○第2回推進会議情報共有	○校長会での報告 今年度の取組まとめ来年度の取組の方向性 ○第2回推進会議情報共有	○校長会での報告 今年度の取組まとめ来年度の取組の方向性 ○第2回推進会議情報共有
3月		3 学習発表会(防災学習のまとめ発表:6年生) 11 集会 避難訓練(地震・津波) ○職員研修(校内研究のまとめ)		

4 取組における成果と課題

(1) 成果

- ・モデル校では、防災教育コーディネーターを中心に年間を通じて防災教育を計画的に実施することにより、教職員・子ども・保護者の防災意識が向上した。特に、総合的な学習の時間や郷土学との関連で、探究的な学習により子どもたちが主体的で対話的な学びに向かっている姿が随

所でうかがえた。

- ・モデル校の公開研究発表会を実施することによって、モデル校の実践を市内全学校へ好事例として伝え、広げていくことができた。
- ・コロナ禍で取組の修正および中止を余儀なくされたが、感染防止に配慮しながら可能な活動については、できる限り取り組むことができた。

(2) 課題

- ・モデル校での実践を市内各学校の実践へとどのように具体化して伝え・繋げていくかが、今後の課題である。
- ・コロナ禍で先進地視察研修の中止や講師を招いた研修会等の機会が限られていたことは、今後の課題である。

5 今後の取組の見通し

- ・今年度の取組を校長会でそれぞれ報告し情報共有を図る。
その後、カリキュラムマネジメントの視点から、教育課程の見直しを行い、次年度につないでいく。
- ・今年度のモデル校の全体計画や年間指導計画、指導案等研究の成果物については市共有フォルダに掲載し、市内各学校の教育課程編成の参考資料として活用する。